

## 2012年度 堆肥番長を愛用して下さる御客様の声

### 肥育関係実績

大分県Ka 牧場（黒毛和牛肥育150頭） 詳細はDVDで確認可能

堆肥番長の撒布とバーチカルハローによる床敷材表層攪拌管理法と組み合わせることで、オガ粉購入経費が年間で約100万円削減した。堆肥の排出量も削減できるため、処分経費も考えるとコストは更に削減できた。

大分県I 牧場（ホルスタイン肥育360頭）

ホルスタイン肥育水分含量の多い床敷材オガ粉の臭気対策に堆肥番長を150㎡あたりに1袋使用しているが、30日間床敷き後に回収した堆肥の発酵温度の上昇がはやく、堆肥の引き取り先からも好評である。床敷材オガ粉の消費量も月140㎡から100㎡に（月当40㎡ 8万円削減）することができた。

堆肥番長を使用し始めてから、床敷材を全量交換する必要がなくなり、部分交換で対応可能になった。部分交換を実行し始めてからウシ個体の臭気が牛舎内に残存するためであろうか、敷き材交換終了後のウシの暴れ方が少なく、落ち着きを取り戻すのが早い。

大分県Ko 牧場（黒毛和牛肥育1200頭）

『汚ねるところにバンバン撒け』という友人の助言に従い、パーク床敷材とパーク堆肥の上から堆肥番長を惜しみなく撒いたところ、牛舎の臭気が軽減し、床敷表面と堆肥の乾燥状態が改善できた。この乾燥堆肥を新しい籾殻・オガ粉と等量混合したものを再度床敷材としてリサイクル可能か検討中である。

福岡県I市 N牧場（黒毛和牛肥育500頭）

牛糞12トにブロイラー鶏糞3ト（4：1の割合）で攪拌混合し、堆肥番長を1袋混ぜてから大量に堆積発酵させると（切返し作業は月に1回程度）、鶏糞由来の悪臭が発生を抑えた良質堆肥の製造が可能です。月に1回の切返し実施時に臭気が発生した場合のみ、堆肥番長を追加で撒布しています。水分含量50%台のほうが発酵温度上昇値は高いようです。

### 酪農関係の実績

福岡県K市 C牧場（ホルスタイン搾乳70頭）

ホルスタイン生糞は毎日5㎡発生したものをエノキ粕菌床10㎡と混合し、回転式堆肥発酵槽で13日間の発酵処理をしているが発酵温度は中々上昇せず、菌床由来の薬品臭は周囲住民から苦情が出ており長年悩まされていた。1日1袋の堆肥番長使用によって堆肥の発酵温度が発酵開始5日目で約60℃まで到達し、13日間の発酵終了後の堆肥には薬品臭も除去されており、周囲住民の苦情も無くなりました。K市 農業普及所センター畜産係 I氏によるアンモニア臭気測定結果も問題ありませんでした。

福岡県I市 C牧場（ホルスタイン搾乳90頭）

ホルスタイン生糞を2週間ほど堆積させてある程度水分を削減したもの6㎡、剪定屑の床敷材3㎡、堆肥番長1袋の割合で攪拌混合したものを合計63㎡（堆肥番長7袋使用）堆積発酵させたところ、切返しをせずとも発酵温度が60℃を超え、悪臭も殆ど発生していません。